

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100986		
法人名	医療法人社団正信会		
事業所名	グループホームなのはな (2の館)		
所在地	〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町4708番地の41		
自己評価作成日	令和 3年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和 4年 2月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100986-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの理念「目配り気配り気遣い地域と共に寄り添う支援を念頭に、四季を楽しんで頂ける様季節行事(ひな祭り・敬老会など)他の館の利用者様との交流を図り楽しみのある生活を送って頂ける様、企画をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人であり、母体病院の医師による訪問診療や週1回の訪問看護師の見守り、24時間体制で緊急対応が可能であり、職員や利用者、家族等の安心に繋がっている。管理者や職員は理念「目配り、気配り、気使い」を念頭に置き、優しく、親切をモットーに利用者に対して介護サービスに努めている。コロナ禍の状況下で外出などが難しい中で職員は納涼祭や七夕祭りなどの行事を縮小して、廊下でボウリング大会や玄関で折り紙の魚釣りをするなど工夫をして利用者が楽しめるよう行事を行っている。事業所の畑で利用者と職員はジャガイモやトマト、ピーマンなど作り、収穫した野菜を食材にして味わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目配り気配り気遣い地域と共に寄り添う支援を元に理念の実践に努めています	年度ごとに理念についての話し合いを行い状況に応じて見直している。職員会議時や新人教育時に確認している。全体会議の際に、職員へ理念の確認を行い、理念に沿った支援を行えるように意識づけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上半期はコロナ禍の為自粛していましたが、10月には、地域の方のお宅に伺いキウイ狩りを行いました。	コロナ禍以前参加していた地域の祭りなどの行事参加等は、感染症対策で参加していない。民生委員など地域の方々と職員は、書類を渡しに訪問したり、継続して連絡を取り合い、平時に戻った際に交流できるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為行動は出来ておりませんが、書面での運営推進会議資料での情報提供により、認知症の理解は頂いていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為運営推進会議は書面上で行いましたが、頂いたご意見を反映させ、サービスの向上に努めています。	コロナ禍の為書面での開催となっている。コロナ禍の状況下で感染対策や外部との関わりの件で意見があり、感染予防の為に面会は基本禁止で家族等とは玄関先でガラス越しでの面会をするなど、感染予防対策を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会や生活福祉課の職員との連絡を取り、協力関係を築いております。	市の担当課を訪問し手続きや、相談を行い、事業所の情報提供をし、情報交換を行なっている。運営推進会議には市の職員が2名参加し、書面での情報提供を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の発言・行為・行動が身体拘束に繋がるのかを話し合いながら、スピーチロックなどの拘束にならぬ様努めております。	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回開催し、記録を残している。内部研修会でDVDを使い年2回行っているが、研修会の実施記録を残すまでには至っていない。	研修会を実施した際には記録を残すことを提案する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の中、勉強会などへの参加が出来ておりませんが、認知症高齢者への虐待の無い様日々職員同士で連携を図り注意を払っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の利用がどの様な方に必要かを理解しており、ご本人・ご家族に提案し、活用できる様支援に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約前に説明させて頂いており、ご家族様が納得頂いた上で契約して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しております。 ご家族様からは、お電話にてご意見を伺ったり、ご利用者様からは、日々の会話の中から要望をくみ取り、支援に反映できる様取り組んでおります。	コロナ禍の状況下で面会の問い合わせがあり、玄関先のガラス越しの面会や電話や遠方の家族等とはタブレットでの対応など工夫をして家族等の要望に答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる定例会議にて発言が出来、定期的な職員会議により話し合いが行われて入るため職員間での意見が反映出来ております。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、物品の購入、シフト体制など職員の希望を聞いている。月1回定例会議をおこない、職員の意見や要望を聴いている。各棟で意見があった場合は臨時に会議を開催し、早急に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部で行われる会議にて職員が無理なく働けるよう話す機会を頂いており、やりがいを持って働ける環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、研修などへの参加は出来ておりませんが、職場内においてケアの向上に向けての注意点など話し合いが出来ております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為交流の場への参加は出来ておりませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご契約前に頂く情報提供書や、ご家族様からのお話を伺い、ご本人の状況を理解し、安心して生活出来る様関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始以前に困り事や不安な事をご家族から伺い、安心してご利用頂ける様関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様に対し、今必要な事をご家族に伺い、職員間で話し合いサービス対応が出来る様努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように寄り添い、関わりを持つ事で話しやすい関係が築ける様努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為直接の関わりは出来ませんが、玄関先で職員付き添いの元、ガラス越しでの面会を行い、現状の把握をして頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外来受診以外の外出は、コロナ禍により出来ませんが、玄関先での外気浴などで気分転換に努めております。	入居時に本人、家族等から情報収集をし、普段の生活の中でも確認し把握に努めている。手紙や電話でのやりとりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや季節の行事等・他の館への往来誘導を行い、交流が持てます様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了は、ほとんどが死亡されたの為、その後の支援は行っていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の様子観察を行う事により、意向の把握に努めております。	日々の支援の中で把握し、個別の担当者会議で話し合い、内容は記録に残して職員で共有している。聞いたことは、全体会議やユニット内でカンファレンスをして、共有している。本人の意向が介護計画書に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供所に目を通し、生活環境や生活歴等把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子や変化を見逃さず、個人記録に記し、申し送りで情報を共有し、現状の把握に努めて降ります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況や、ご家族の意向を踏まえカンファレンスを開き、意見交換を行い、支援方法などに反映させ、介護計画書の作成に努めております。	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護保険の有効期間に合わせて見直しを行っている。退院時や状態悪化などの時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、行動など記録し、介護計画の見直しや検討に活かせる様努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてご家族に様子を相談しながら、状況にあった支援に対応できる様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段は、地域の方やボランティアの協力をいただいておりますが、今年はコロナ禍により参加いただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族様との話し合いにより決定しており、協力医療機関以外の受診は、ご家族に連絡し、受診送迎のご協力をお願いしております。	かかりつけ医への受診が可能なことを家族等に説明しているが、ほとんどの利用者が母体法人の協力医療機関に受診している。協力医療機関以外への受診は家族等に付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護氏が来るので、ご利用者様の相談が出来ており、又日々の様子に変化が見られた際には、適切な看護・受診が出来る様相談し、支援に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院の為、常に連絡が取れており、入院が合った場合には、安心して療養が出来る様情報交換に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には病院に入院となる為、見取り看護は行っておりませんが、ご家族に支援に努めております。	重度化した場合における対応にかかる指針、入居時リスク説明書を整備し、看取りを行わない事業所であることを家族等へ入所時に説明している。緊急時の連絡網や搬送先病院への連絡方法などの対応マニュアルを作成している。職員研修を行うまでには至っていない。	重度化に関する研修会を実施し、記録を残すことを提案する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに基づき対応できる様努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、うちはらとの合同避難訓練を行っております。今年は、コロナ禍の為地域の方のご協力は頂きませんでした。	点検業者の協力のもとに災害対策訓練を同法人の隣接グループホーム施設と合同で行っている。訓練後は反省会を行っている。コロナ禍前は近隣住民の協力を得ていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自室を設けており、訪室の際にはノックや声掛けを行い、プライバシーの配慮に努めております。	職員は利用者の人格の尊重やプライバシーなどの言葉かけに配慮している。入社時に職員は守秘義務を守る等の規程を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話の中でも、質問や掲示方法を買え、自己決定が出来ますよう支援に勤めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や表情からくみ取り、職員本位にならぬ様ご希望を伺い、ご本人のペースに合わせて、穏やかに過ごせます様支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問散髪サービスを利用し、好きな髪形に出来る様要望を伝えられるようにしており、又、季節に合った服装を準備し、好みの服が選べられる様支援に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒にテーブルを囲み、楽しく食事が摂られます様話の内容を考えております。又、後片付けが出来る方にはお手伝いを頂いております。	職員が食材を法人に取りに行き、食事担当者が利用者にあつた味付けをしている。代替え食も用意している。天気の良い日は庭にテーブルを出してお茶を飲んだりお昼を食べている。職員が手作りのおやつを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事の形状で提供しており、残さず召し上がって頂けます様支援に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、自立度に合わせた支援に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導や個々の間隔に合わせて声掛けを行い、自力排泄が出来ますよう支援に努めております。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けしてトイレに誘導している。立位ができる利用者は車椅子利用者でも基本的にトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い、水分を多く摂取出来る様提供したり、軽運動の声掛けをして、便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は決まっておりますが、入浴前のバイタルチェックをし、その日の体調に合わせ、安心して入浴が楽しめるよう支援に努めております。	シャワー椅子や手摺を設置し、安全に入浴できるように支援している。3ユニットあるので、基本的に毎日の入浴も可能である。入浴を拒む利用者には入浴順番を変えたり、別の職員が声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時に、休まれる方には休んで頂き、休まれない方には自由にして頂き、日光浴をして頂くなどの工夫をし、体調に合わせた休息が取れますよう支援に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬が無い様、職員間で名前確認を行い、症状の観察に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や軽作業のお手伝いをして頂けるようお願いをし、役割となれます様支援に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は外気浴をかねて玄関先で水分補給を行ったり、散歩に出掛けております。ご家族との外出は、コロナ禍の為行っておりません。	敷地の広い駐車場を利用して、テーブルを出し、外気浴しながら食事を摂って気分転換している。中庭の桜の下でお花見食事会を行っている。天気の良い日は近くの公園まで散歩に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理されている方は、今はありません。職員が預かっている方には、要望に応じ買い物の代行を行い、ご家族が管理している方には連絡をし、届けていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話がありますが、利用されている方はありません。ご連絡があった際には、ご本人に取り次ぎ、お話が出来ますよう支援に努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒暖差に応じた温度管理を行い、加湿・換気に努め、居心地良く暮らしていただけます様支援に努めております。	広い窓から日差しを取り込んで明るく開放的な空間である。廊下、居間兼食堂に広いテーブルと長椅子が配置され、思い思いにくつろぐことが出来るようになっている。居間兼食堂には小あがりの和室があり、利用者は腰掛けて洗濯たたみなどを行っている。玄関は観葉植物を飾り、折り紙作品の得意な利用者の展示コーナーなどをつくり、暖かい雰囲気となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下に長椅子を置き、ご利用者様同士でお話されたり、ゆっくりと過ごして頂いております。又、食卓椅子で落ち着いて過ごされている方もおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきて頂いたり、ご家族の写真や好みの飾りを飾り、居心地良く暮らして頂けます様配慮に努めております。	居室にはエアコンやベッド、洗面台などが備え付けられている。利用者はそれぞれに寝具や椅子、孫の写真など思い入れのあるものや好みのもの、使い慣れたものなどを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが設置されており、段差の無い環境の中で、安心して暮らして頂けます様環境整備に努めております。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームなのはな

作成日 令和 4年 2月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回開催し、記録を残している。内部研修会でDVDを使い年2回行っているが、研修会の実施記録を残すまでには至ってない。	内部研修の記録を残す。	DVDで見た内容を話し合い、職員それぞれの意見をまとめ記録する。	2ヶ月
2	33	重度化した場合における対応にかかる指針、入居時リスク説明書を整備し、看取りを行わない事業所であることを家族等へ入所時に説明している。緊急時の連絡網や搬送病院への連絡方法などの対応マニュアルを作成している。職員研修を行うまでには至ってない。	職員、夜勤者への研修を行う。	緊急時対応マニュアルを利用して、誰もが慌てず・焦らず・迅速に対応が出来る様、研修を行い記録する。	即時ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。